

民間拠点 (ネスト)

クリエイターを育てる“NEST”づくり

2004年-2006年 北仲WHITE

- ▼ 開発予定地の解体予定物件(旧帝蚕ビルディング,1928)を一年半限定で、クリエイターに通常の1/3の家賃で貸出し。50組ほどが入居。

2008年-2010年 本町ビルシゴカイ

- ▼ 歴史的建造物(本町ビル,1934,渡辺節)の4・5階のみをクリエイターらに貸出。3年10組近くが入居。ホテル建替え時に退去。

2011年-2017年 宇徳ビルヨンカイ

- ▼ オフィスビルの4階のみをクリエイターらに貸出。契約満了を契機に退去。



宇徳ビルヨンカイ

普通のオフィスビルのワンフロアだけクリエイター拠点に。





パークフェス。



3. 見えない価値を見抜く。



川越 F Gallery

川越一番街

町づくり規範

町並み委員会

- 1965～専門家の問題提起
- 1971 城下町川越開発委員会
- 1975 伝建調査
- 1983 川越蔵の会
- 1986 川越一番街活性化
モデル事業調査
(コミュニティーマート構想)
- 1987 町並み委員会発足
- 1988 町づくり規範
- 1999 重伝建指定

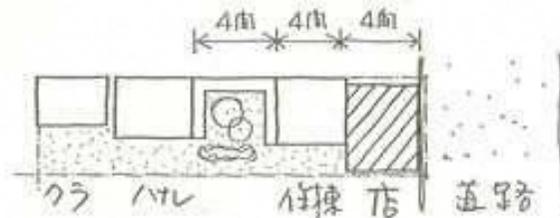
建築B. 建物・棟の配置・・・(5)

50. 4間・4間・4間のルール**



一番街通り沿いの敷地では、各敷地ごとの建物がに一定の配置パターンに従うことによって、お互いの環境を守りあっている。その棟配置パターンについて、隣どおしで了解しあった目安が必要である。

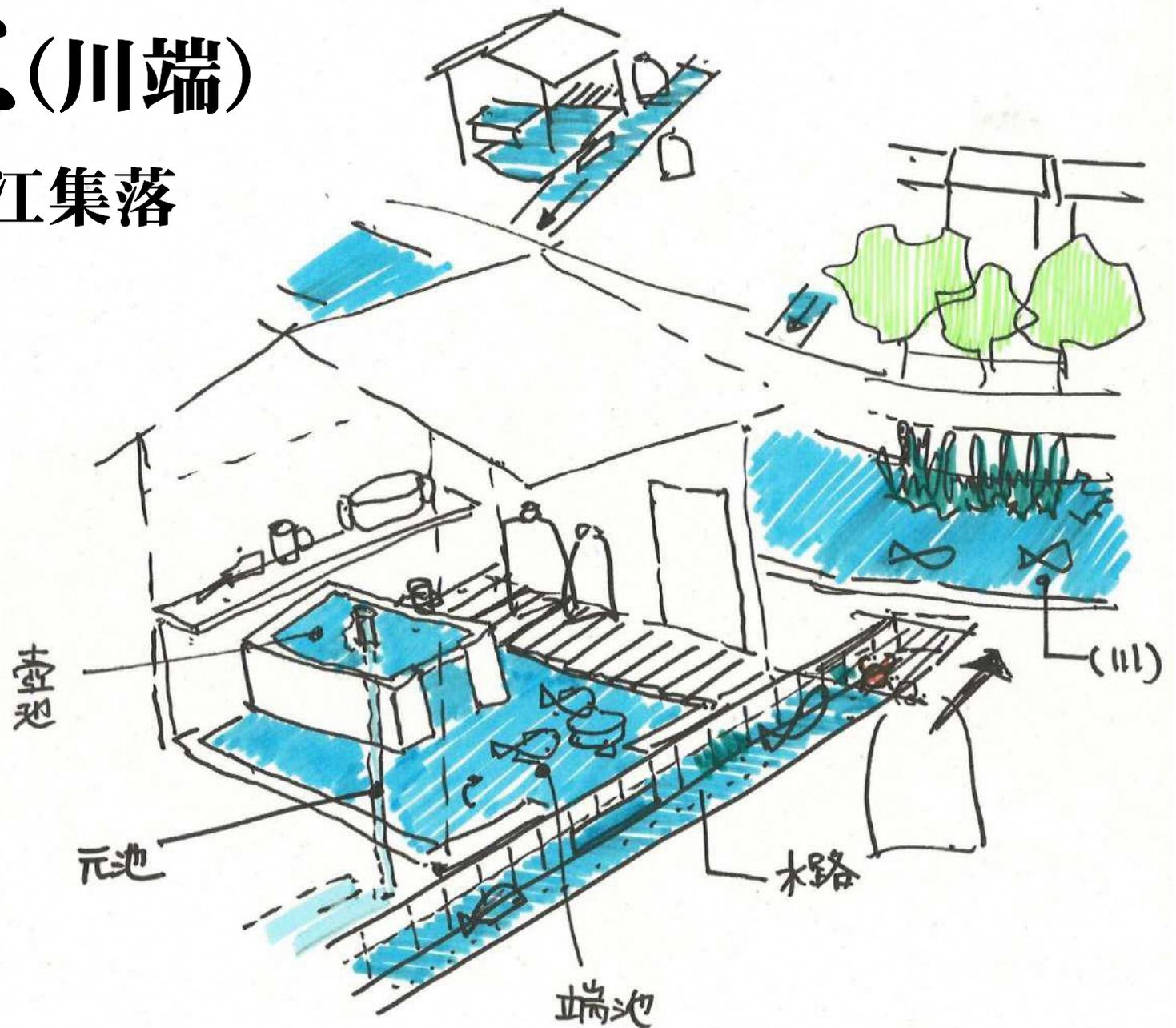
表通り沿いの敷地を利用するにあたっては、できるかぎり以下の目安に従おう。道路から4間は、敷地をいっぱい利用し、建物は接隣・接道型とする。次の4間では、棟を北に寄せ南を開けるように配置する。ただし、隣接敷地への影響を十分に配慮する。その次の4間は可能な限り庭を主体の利用とする。



3. 見えない価値を見抜く。

かばた(川端)

滋賀県高島市針江集落



水路と梅花藻。



水路と梅花藻。

3. 見えない価値を見抜く。



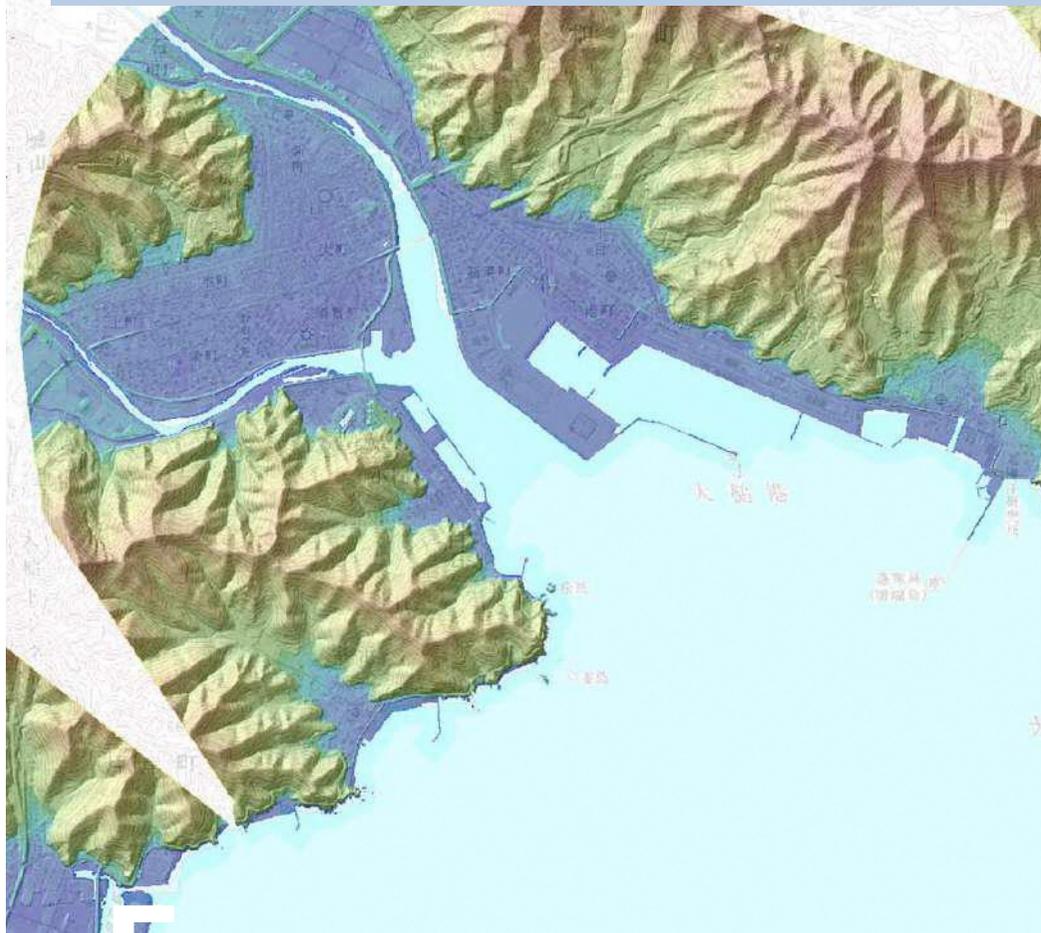
外川端(そとかばた)

3. 見えない価値を見抜く。



内川端(ちらかばた)

3. 見えない価値を見抜く。



5

東日本大震災被災状況

大槌町(岩手県)

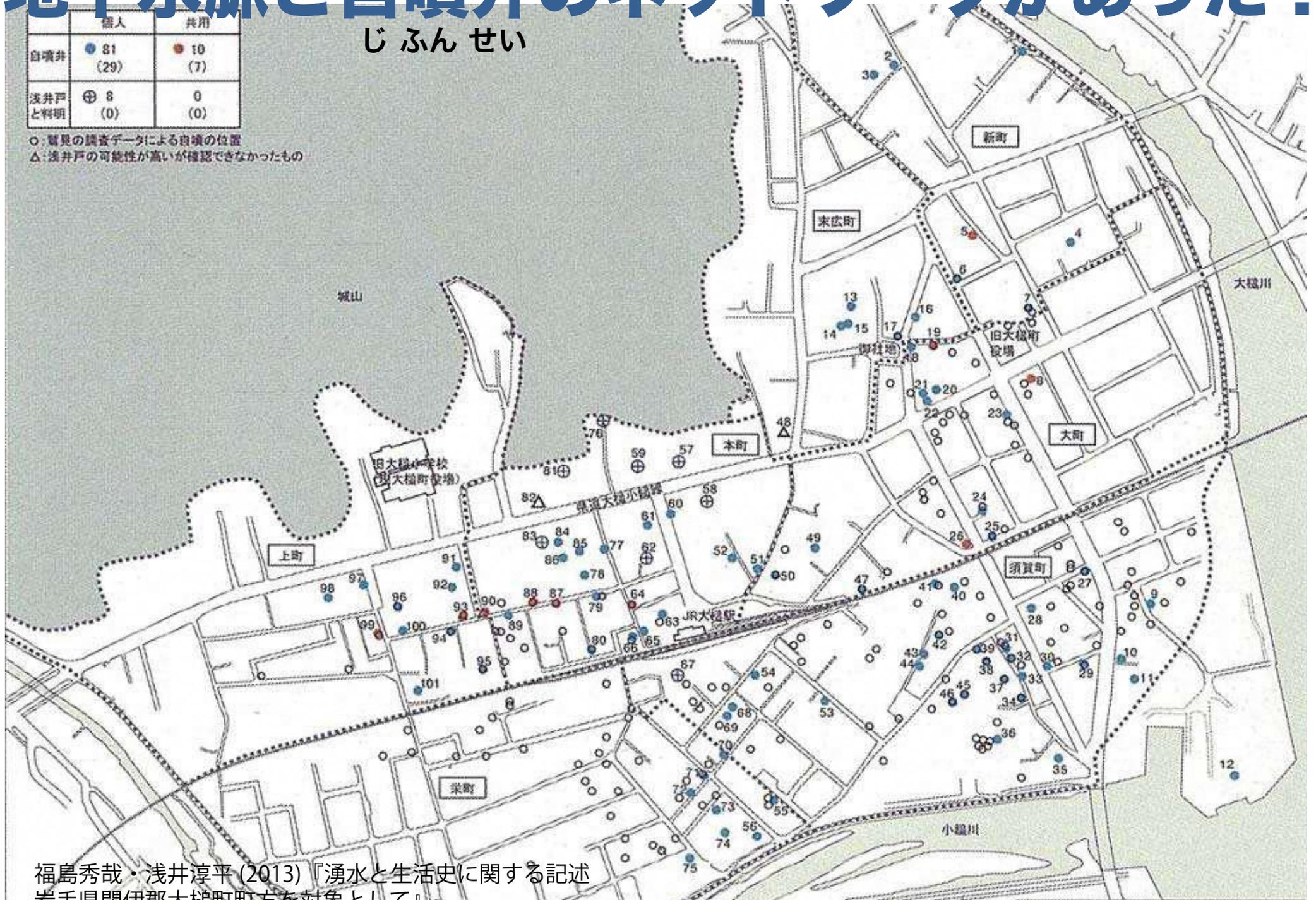
東日本大震災と都市空間の保全再生

地下水脈と自噴井のネットワークがあった！

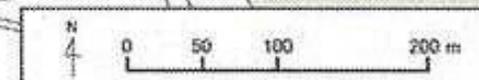
じふんせい

	個人	共用
自噴井	● 81 (29)	● 10 (7)
浅井戸と料明	⊕ 8 (0)	○ 0 (0)

○: 観測の調査データによる自噴の位置
△: 浅井戸の可能性が高いが確認できなかったもの



福島秀哉・浅井淳平(2013)『湧水と生活史に関する記述
岩手県閉伊郡大槌町町方を対象として』
日本土木学会景観・デザイン研究講演集No.9



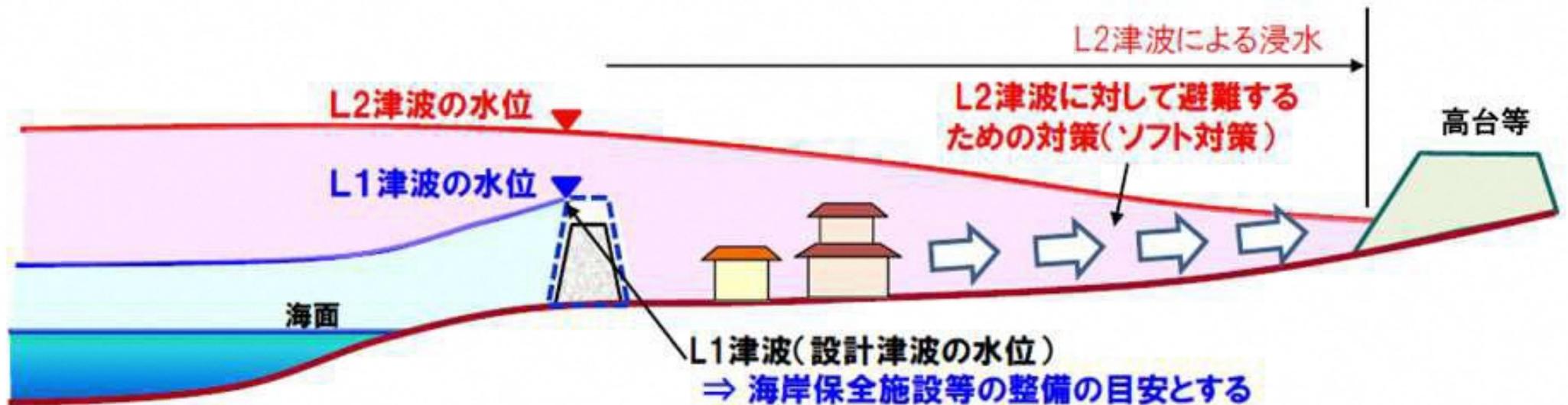
津波制御の2つの考え方

L1: 100年に1度訪れる津波

→ハード整備で完全防御
【一線堤等で対策】

L2: 1000年に1度訪れる津波

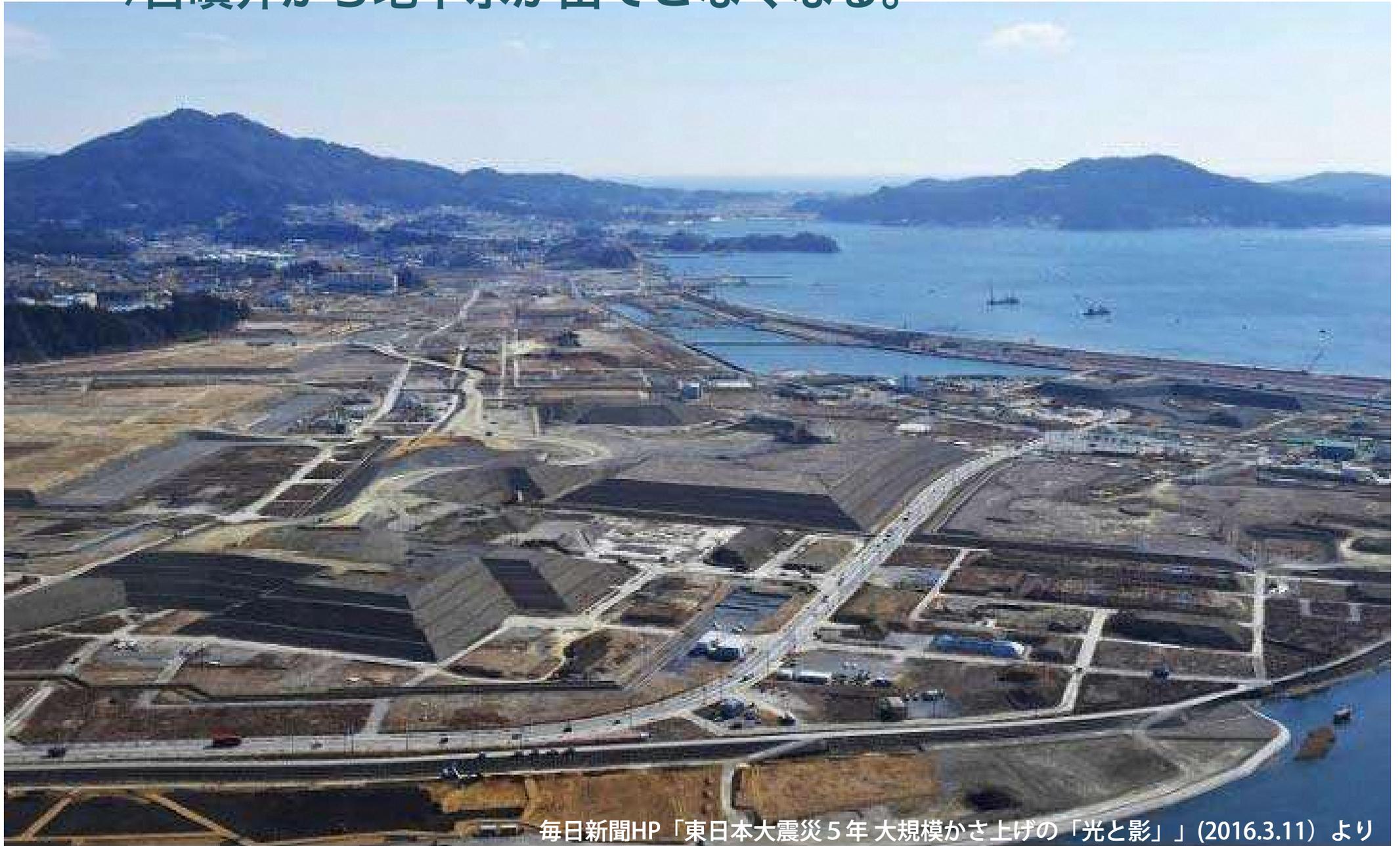
→流速2m/sの津波が水深2m以上の高さで来ると建物倒壊率UP
【二線堤・盛土等で対策】
→それ以外はソフト対策



津波からまちを守るための「かさ上げ」

⇒ 平均2.2mの盛土による「かさ上げ」の実施。

⇒ 自噴井から地下水が出てこなくなる。





自噴井を残し、活かす。



御社池を受け継ぐ。



まとめ

① 今（日々）を大切に生きる。

⇒立派な歴史的建造物も100年先を考えて創ったわけではなく、その時の精一杯の情熱で創られている。現代のモノは精一杯の情熱をもって創られているか？

② 今が過去も未来も決める。

⇒過去が今が決めている。未来も今が決められている。
今が未来の今につながる。

③ 価値を見抜き、活かす。

⇒一見すると見えない本当の価値を見抜く目を養う。

⇒そこに新しい魅力を足して、資産の価値を「活かす」。

そして、草津は？！

